ゆる釈
むかし物語

放屁、無情

光東夢慶

【ゆる釈・むかし物語】シリーズ
牛車と三人の侍　http://p.booklog.jp/book/99742

【未来今昔物語】シリーズ
人力発電所の真実　http://p.booklog.jp/book/98813
リアル戦争ごっこ　http://p.booklog.jp/book/99475
物質転送装置　http://p.booklog.jp/book/99760

牛と異星のアルダムラ
縦書き（画像版）版
http://p.booklog.jp/series/detail/1565
横書き（テキスト）版
http://p.booklog.jp/series/detail/1535

ゆる釈　むかし物語

放屁、無情

宇治拾遺物語　巻第三の二

『藤大納言忠家物言フ女放屁ノ事』より

放屁、無情

むかしむかし、京の都に、藤大納言忠家（とうだいなごんただいえ）という、殿上人（てんじょうびと）がいました。殿上人とは、帝が普段いる御所『清涼殿（せいりょうでん）』の『殿上の間』に昇ることを許された人のことです。

さて、この忠家、ある屋敷で女性と話していました。女性は、一段高くなった敷居、下長押（したなげし）の向こうに座っていて、その姿は、簾（すだれ）に隠れています。

女性は美しく恋愛上手と評判でした。おそらく男性の忠家が女性の屋敷を訪れたのでしょう。この時代、男性の方から女性の家に訪れることが当たり前でした。

放屁、無情

やがて夜が更けてきました。物語では『月は昼よりも明るかった』と描写しています。その夜は、丸い月が出ていて、空も澄んでいたのでしょう。

月の白い光が屋敷の中に差し込んでいます。当時の女性は、薄暗い空間でぼんやりと白く浮かび上がって見えるような化粧をしていました。

ちょうどたまたま、月の明かりが女性をいい角度で照らしたのでしょう。男性には、女性が簾越しにほのかに輝いているように、大変美しく見えたのかもしれません。

（辛抱たまらん！）

と、思った忠家は、女性のいる簾をひょいと上げてくぐり、一段高くなっている下長押にあがると、女性の肩を抱き寄せました。

「あっ……」

女性の髪の一部が、自分の顔にふわりとかかりました。艶めかしく見えたことでしょう。

「まあ、はしたない……」

などと、女性が抵抗するそぶりをしたかと思うと、次の瞬間、あの音が屋敷の空気を震わせました。

物語の原文では、『いとたかくならしてけり』とあり

放屁、無情

ます。

そうです。体を動かした瞬間、女性の尻から大きなおならが出てしまったのです。古語の『たかく』は、高音という意味もあるので、そういう音だったのでしょう。

（あ……）

言葉を失う女性。そのとき凍り付いた空気は想像にかたくありません。女性は、ぐったりと、しなだれかかるようにして伏してしまいました。

一方、忠家は、

（はあ……。何だかもう、がっかりだ。……つらい。ああ、

放屁、無情

この世の全てが嫌になったわ。そうだ、出家しよう……）

と、体を起こし、簾の裾を少し上げて体を滑り込ませるようにして出ると、空気が変わったその場を、足音を立てないように、こっそりと離れました。

（……うん、絶対に出家しよう）

などと、思いながら、簀の子（すのこ）と呼ばれる縁側の廊下に向かう忠家。やがて、廊下の柱を二本分ほど進んだところで、ふと次のような思いがもたげてきました。

（待てよ？　そもそも、あの女が恥ずかしい失敗をしでかしたからといって、なんで自分が出家せねばならんの

だ。ばかばかしい……。一瞬とはいえ、どうしてあんな気持ちになったんだろう……）

と、思い直すと、忠家の気分が晴れてきました。気持ちが軽くなるにつれて取りも軽くなり、やがてタタタタタ……と走って屋敷を出て行きました。

女性は、女房という身分の高い人でしたが、その後、彼女がどうなったかは、誰も知らないそうです。

（了）

ゆる釈・むかし物語【縦組版】放屁、無情

http://p.booklog.jp/book/99922

最後までお読みいただきまして誠にありがとうございました。

この場をお借りして他の作品も紹介させていただきます。

【ゆる釈・むかし物語】シリーズ

牛車と三人の侍　http://p.booklog.jp/book/99742

【未来今昔物語】シリーズ

人力発電所の真実　http://p.booklog.jp/book/98813

リアル戦争ごっこ　http://p.booklog.jp/book/99475

物質転送装置　http://p.booklog.jp/book/99760

牛と異星のアルダムラ

縦書き（画像版）版 http://p.booklog.jp/series/detail/1565

横書き（テキスト）版 http://p.booklog.jp/series/detail/1535

著者：慶

著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/kohtohmookay/profile

感想はこちらのコメントへ

http://p.booklog.jp/book/99922

ブクログ本棚へ入れる

http://booklog.jp/item/3/99922

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）

運営会社：株式会社ブクログ